

# 活動状況報告書（12-3 月分）

スポーツコース 太田 ゆき菜

今回は①カナダでの研修、②東京マラソン、について報告したいと思います。

## ① カナダでの研修

12月から1月にかけて、カナダのBC州で研修を行いました。カナダでは車いすバスケットボールキャンプにボランティアとして参加したり、練習会にプレーヤーとして参加し、アメリカで経験している大学の部活とはまた違った地域のスポーツ組織としての活動を経験することができました。バンクーバーではICOADという脊柱の研究施設へ視察に行き、そこで日本人PTの研究者の方々にお会いしました。ICOADではクリニックと研究施設が併設されており、また1階のトレーニング室では維持期の患者さんが無料でマシントレーニングをできるようになっていて、そこで行われたトレーニングがデータとして記録され、そのデータが研究に役立てられていました。海外で活躍する日本の素晴らしい研究者の方々にお会いできたことはとても刺激になりましたし、色々お話ししたことで、私の中での大きな目標が見えた感じがしたので、貴重な出会いに感謝したいと思います。さらにICOADでパラアスリートの方にお会いし、練習に誘っていただいたので、車いすフロアボールの練習に参加することで、今まで経験のなかった新しい車いすスポーツに出会う機会にも巡り会いました。そこからの繋がり、パラアイスホッケーの練習にも誘っていただき練習にも参加しました。

バンクーバーではBC州のアクティビティのWebページから、ヨガや水泳、バスケットボールなど一般市民がアクティビティを検索し、申し込みできるページがあって、そこにパラアイスホッケーもあり、Web上で参加したい日を選択し、申し込み、支払いを簡単に行えることで、練習会参加のハードルはものすごく低く、スムーズに参加することができました。参加した日は祝日だったため子供達が多くきており、障がい児の両親や、兄弟、その友達も一緒になって氷の上でパラアイスホッケーを楽しんでいる光景はとてもいいなと思いました。カナダでは多様性に関わる認識がとても進んでおり、障がい児者のみならず、LGBTQ+等に関する理解もとても進んでいます。その一つの要員として、このように小さい時から障がいや色々な違いにかかわらず一緒に遊ぶということが役立っているように感じました。また、ビギナークラスは子供達が多いのに対して、中上級クラスではカナダ代表の選手が参加しており、レベルの高い練習を経験することができました。

このように、必要に応じてカテゴリー分けをすることで幅広いレベルの方々がパラスポーツを楽しめる仕組みはとても良いなと感じました。また、バンクーバーは冬季種目の施設が整っていて、アイスアリーナがたくさんあるのに加えて、カーリング場もあり、一つの施設の中にカーリング、アイスリンク、プール、トレーニングジム、図書館、バーなどが一緒になっていて、子供も大人も週末に足を運ぶにはとても良い場所になっています。このようにアメリカとはまた違った雰囲気を感じられたカナダでの研修となりました。短期間ですが、カナダの空気感はアメリカとは思っていた以上に違い、アメリカはシビアで結果を求められ、サバイブしていく必要がありますが、自分が頑張れば頑張っただけチャンスがもらえる風潮があるのに対し、カナダはもう少し和やかな雰囲気、幅広い人を受け入れ、アメリカとアジアの間のような印象を個人的には受けました。また、それらの多様性を尊重する風潮はパラスポーツのコミュニティにもよく現れているように感じました。何よりこの期間は”スポーツは世界共通言語”であることを痛感しました。カナダでは初対面の人がほとんどでしたが、一緒にスポーツをして、そのあとご飯に行って、そこからまた新たな人に出会って…とパラスポーツを通していろいろな人と繋がるのが出来ました。

障がいの有無に関わらず、車いすに乗って一緒に走り回ること、世界中に友達ができる！これはスポーツの持つ大きな力だと再認識しましたし、だからこそ社会にスポーツが必要であると改めて気付かされる期間となりました。

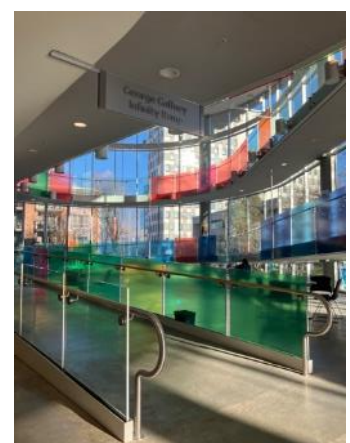
## ② 東京マラソン

3月3日に東京マラソン2024があり、大会運営団体から車いす選手対応のお仕事をいただいたので、2月末から日本に戻り、運営サイドで働きました。私は車いす部門のサポートだったため、海外選手の受け入れから、練習の調整、テクニカルミーティング、当日のサポート、通訳等海外選手のアテンドを

中心に、時にはレーサーの修理など、アメリカで学んだことを幅広くいかして、ホームの日本で働くことが出来たことを嬉しく思います。さらに日本のジュニア選手を始め、多くの方々にお会いする機会にも巡り会えたことはとても有意義でした。大会前後はとても忙しく、朝から夜までバタバタではありませんでしたが、無事に大会を終えられよかったなと思います。また、現在研修中のアメリカの大学の選手たちも招待エリート選手として来日していたため、そのサポートも行いつつ、試合後には海外選手たちと東京を歩き、一緒に日本の文化に触れるなど貴重な時間を過ごすことが出来ました。アメリカのチームメイトや普段海外のレースで顔を合わせている選手たちに日本を案内できたことはとても感慨深かったです。

海外選手たちは、日本の満員電車に乗った時に誰もヤジを飛ばしたり、歌を歌ったり、世間話をしたりすることなく、静かに座っていることにとっても驚いていました。あとは道にゴミがないこと、そしてゴミ箱もないことは何度も話題になりました。アクセシビリティの面では、電車の駅には階段しかなかったことも多く、選手が座っている車いすごと持ち上げて階段を登るなど、強行突破を強いられた場面も多々ありましたが、たとえ設備が整っていないくても、海外選手の自己主張の強さとフレンドリーな対応で、そこまで困ることなく楽しく観光をすることが出来ました。今ある状況を楽しみながら、いかに切り抜けるかは大切なスキルだと感じます。今回は東京で海外選手たちと貴重な時間を過ごすことが出来ましたが、将来的には海外選手を北海道に招待し、車いすスポーツのキャンプや国際交流をする機会を作るのが目標です。海外で学んでいること、またそこで生まれたコネクションを生かして、それを少しでも北海道に還元できるような機会を作れるように頑張りたいと思います。

### カナダでの研修の様子





東京マラソンの様子

